

## 令和2年 自己評価書

真庭市立川上こども園

### 1. 川上こども園の教育保育目標

○豊かな人間性をもった心身ともに健康なこどもの育成

- ・元気いっぱい
- ・優しさいっぱい
- ・やる気いっぱい川上の子

### 2. 本年度の重点目標

○身近な自然との触れ合いを通じた自己表現に着目し、子どもが主体的にかかわることができる環境づくりを考える。

～のびのびと表現したくなる環境づくり～

- ・子どもが自己発揮できる環境構成（人的・物的・空間的）を考える。
- ・環境構成後、子どもの自己表現がどのように変容したかを振り返り、環境の再構成をしていく。

### 3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合評価
教育課程・指導計画	園の保育目標及び今年度の重点目標に沿った計画の立案や保育実践が、概ねできていた。	3
行事	コロナ禍での行事のもち方を検討する中で、良い意味での簡素化にもつながり、見直しができた。	4
組織・運営	職員が係や仕事を分担し協力しながら、園の運営に関わっていた。	3
学級経営	子どもの気持ちに寄り添いながら、環境づくりを工夫して保育ができていた。	3
特別支援教育	子どもの発達を理解し、個性や特性に合わせた支援を園全体で考えていくようにした。	3

安全管理・保健指導	手洗い・消毒の徹底や、3歳以上児はマスクの着用を習慣化するなど感染症対策を行い、家庭にも啓発した。	3
研修（資質向上）	子どもが主体的にかかわって遊び込める環境づくりを目指して、園内研を行った。	3
情報提供・保護者・地域との連携	園だよりや日々のホワイトボードでの発信など、園の様子をわかりやすく伝えるようにした。	3
小学校との接続・連携	コロナ禍ではあったが、年長児に関しては昨年同様の交流をもつことができた。	3
子育て支援	必要に応じて話し合いの場をもつなど、子育ての不安が少しでも軽減するよう配慮している。	3
食育の推進（給食）	育てて収穫した野菜を給食に取り入れることで、食への関心がより高まっていた。	3
食事の提供（調理）	子どもの実態に合わせた調理形態の配慮、アレルギー児への対応など適切に行っていた。	3

#### 4. その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価
その他1（保育士）	「子どもの好きな遊びや良いところを常に発見しようとしている」の項目で評価が上がっていた。	3
その他2（調理員）	衛生面の徹底や自己の健康管理、職員間での報連相が実行できた。	4

#### 5. 本年度の重点目標及び総合的な評価結果の考察等

○「身近な自然との触れ合いを通じた自己表現に着目し、子どもが主体的にかかわることができる環境づくりを考える」という重点目標をあげ、園全体で取り組んできた。

保育内容は子どもの興味・関心と一致したのになっているか、子どもの「今の育ち」に必要なものは何かと振り返りながら、人的・物的環境の再構成を繰り返していった。

その中で、子どもの変容だけでなく職員の意識にも変化がみられており、今回の評価結果にも表われていたと思う。

行事へ向けての取り組み方の見直しや検討もでき、日頃の遊びや活動の先にある子ども主体の行事へと意識が変わっていったように感じる。

コロナ禍で園外研修に参加する機会や地域の方との関わりが減ったことにより評価が下がった項目もあったが、コロナ禍だからこそ改めて見直せたこと気づけたこともあったのではないかと考える。

○給食業務については、日々の衛生管理、安全管理の徹底やアレルギー児への対応等適切にできており、保育士とも連携をとりながら安心安全な給食の提供ができていた。

#### 6. 評価結果を受けての具体的改善方策等

○コロナに大きく影響され制限もあった1年だったが、今までの保育を見直すきっかけにもなり、環境を通じての子どもの育ちやその環境をつくる保育士の視点や対応力など、必要なものが見えてきて気付きも多かった。

例年取り組んでいた異年齢縦割り活動や施設訪問、園外研修への積極的な参加については、状況を見ながら再開し改善できればと考える。

今後も子どもの姿をしっかりと見つめ捉えながら育ちに寄り添えるよう、保育士自身の資質・専門性の向上に努めていきたい。

#### 園評価基準

評価	基準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である